

## 82. コ・ウ・シ

### ～小学生、中学生、地域住民をつなぐ小中一貫校～

0910920014 芹川 遼平

指導教員 市川尚紀 准教授

視線 動線 小中一貫校 地域住民

#### 1. 設計主旨

今日、小学校において少子化による児童数の減少、子供が被害に遭う事件により、子供の活動範囲の制限や地域住民との繋がりが過疎化しており、コミュニケーション力を学べる機会が減少している。そんななかで相次いで公立の学校が廃校あるいは統合されており、新しい取り組みとして小学校と中学校を一緒にして義務教育の9年間を一つの学校にする取り組みが広がっている。そこでは生活指導や心の育成などといった精神面での成長が目的とされている。本計画では地域開放、人の動線、視線から小学生、中学生、教師、地域住民との交流を軸とした小中一貫校を提案する。

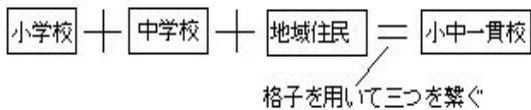


図1 コンセプトダイアグラム

#### 2. 計画地概要

計画対象地は京都の清水焼の産地として発展してきた五条坂を中心に観光地でにぎわい、六波羅密寺、高台寺、清水寺などの有名な寺院が多い場所である。

現在この地域には京都市立洛東中学校、京都市立弥栄中学校、京都市立白川小学校、京都市立新道小学校、京都市立六原小学校、京都市立清水小学校、京都市立東山小学校を一体化した、9年間の一貫教育校、東山開晴館が建っており、850名の生徒が通っている。校舎の東側には廃校になった六波羅小学校がある。通学区域は、貞教・修道・清水・六原・新道の5区からなり、素朴で明るい雰囲気包まれ、今なお、人となりのつながりの濃い地域である。周辺は住宅地に囲まれているが、地域住民と児童との繋がりが希薄に感じられる。

図2 計画地周辺地図

#### 3. 計画内容

##### 3.1 三層の空間

校舎は主に三種類の層で構成される。まず地域住民の動線となる外部の空間。二つ目は外部からの音、匂い、風を通すが、校舎内にある外部と内部があいまいな半外部の空間。三つ目は生徒、教師たちの生活の場である内部の空間。この三つの層があらゆる場所で見られる。校舎の敷地内を出たり入ったりする外部空間は時に地域住民が散歩をして休憩に立ち寄る空間、雨宿りの空間としての機能を持ち、自然と地域住民が学校に近づくのではないかと考える。

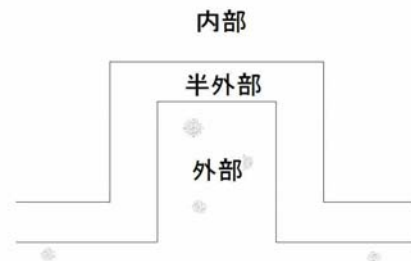


図3 三層の空間のイメージ

##### 3.2 格子の利用法

京都の伝統である格子。ある程度のプライバシーを

守りつつも音、風、匂いを通し、視線、日射を適度にさえぎることができる。これをもとに地域住民、小学生、中学生が互いを意識し合う空間が作れないかを考えた。



図 4 格子としての機能

(1) 格子のつくり

格子に構造体としての機能を持たせた壁を十字、L 時、T 時に配置し、校舎を構成していく。スケールの大きいものは開けた空間や子供たちの遊び場、小さいものは収納としての機能を生み出す。

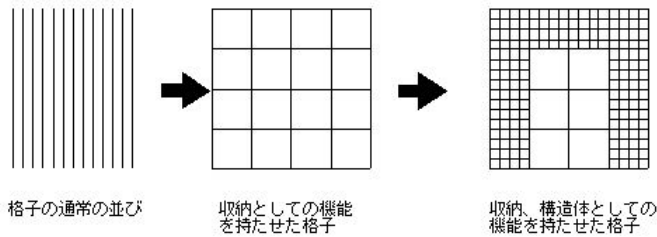


図 5 構造体としての格子のイメージ

校舎を支える構造体として、箱階段を提案する。箱型格子の内部に縦格子をクロスに配置し、斜めに配置した階段をまんべんなく校舎に配置する。ところどころ筒抜けた格子は収納としての機能を持ち、子供たちが覗きこんで視線をかわしたりする。

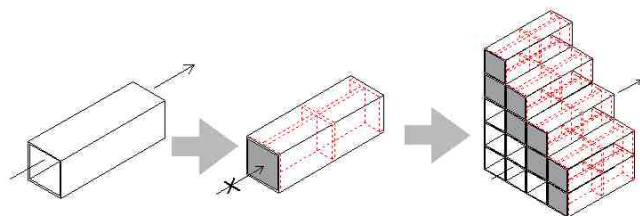


図 6 箱階段の格子

3.3 小学生と中学生の動線

小学生と中学生の動線が交わるように特別教室、HR 教室を配置していく。動線の交わる空間では中学生が小学生に勉強を教えたり、一緒に遊んだりもする、多目的ホールとしての役割ももつ。



図 7 小学生、中学生の動線

3.4 教室のあり方

教室の近くに教師の居場所、廊下と兼用されたフリースペースを設け、教師と他学年との距離、各スペースの広さ、用途を考えていく。このユニットの組み合わせで空間を提案する。

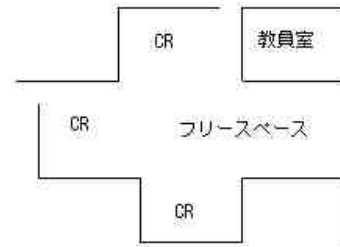


図 8 教室のあり方

4. 総括

今回の計画は、実際に統合された学校を計画対象地としており、学校の内部、外部、半外部の空間を、格子を用いてあいまいにし、小学生、中学生の動線を交わらせた小中一貫校の提案である。内部と外部の間に設けた半外部空間を、出たり入ったりする格子によって区切り、格子の角度によって見え隠れする視界は子供たち、地域住民がお互いに意識し合うきっかけとなり、内部に設けた格子は子供たちにクラス、学年を超えたつながりを感じさせる。そこで他の教室、外部の様子に興味を持ち、グラウンドに出て友達と遊んだり、話したり、一緒に勉強したり、先生に質問したり、地域住民と話したりする。子供たちにとって憧れである中学生、中学生にとって可愛がる存在である小学生、地域住民にとって守る存在である子供たちを身近に感じることで、お互いに興味を持ち、関わりを持つのではないかと考えている。

この学校で学んだ事が、子供たちの将来を明るく照らしてくれる事を期待する。

建築概要

所在地：京都市東山区六波羅裏門通東入多町 155 番地  
 主要用途：小中一貫校  
 構造規模：木造、四階建て